

## 今月のメッセージ (2012年5月)

日本銀行富山事務所長  
佐子 裕厚

富山の企業は強気です。

4月2日に当県を含む北陸地域の「短観」(3月調査分)を公表しました。今年度の景気について、当地の企業が強気の見方をしているのが分かります。

「短観」に回答した企業の「事業計画」をみますと、売上高、経常利益、設備投資のいずれもが前年度を上回り、製造業においては、経常利益と設備投資で二ケタの伸びとなっているのが目につきます。全国ベースと比較しても、当地の企業は「元気」です(下表参照)。

2012年度事業計画(前年度比、%)

	北陸			(参考)	全国	
	製造業	非製造業	全産業	製造業	非製造業	全産業
売上高	+8.1	+0.8	+5.1	+1.9	+1.2	+1.4
経常利益	+21.3	+4.0	+15.5	+3.5	+1.2	+2.1
設備投資	+15.0	+3.8	+12.7	+0.4	2.2	1.3

特に、設備投資は、企業の中期的な経営戦略と関係が深いもので、当地の景気に関する明るい展望を感じさせます。

北陸3県ベースではなく、富山県の製造業についてみても、設備投資は前年度を約4割上回っており、医薬品、金属製品、輸送用機械などの業種が積極的です。

経済を巡る足許の環境をみますと、タイの洪水、円高、株安といった面は改善されています。ただ、欧州の債務問題は依然として燻り続けていますし、中国などの海外経済の減速もみられるなど、留意点も少なくありません。

こうした中で、富山の企業が「元気」なのは、中長期的にも需要の拡大が見込める業種が多いことに加えて、技術の高みを愚直なまでに求めていく企業スピリッツが高いことも背景のように思います。世界でただ一つの企業 オンリーワン企業 と言えるような企業が多いのも、こうしたスピリッツによるものなのでしょう。

富山県経済の現状分析については、14日(月)に「富山県金融経済クォーター2012年春」で公表します。是非お読みください。

以上